

一般質問 Final

おはようございます😊初めての一般質問という事で、至らない点が多いと思いますが、よろしくお願い致します。

この度、この市議会議員という仕事を市民の皆様から頂きまして、皆様からは多くのご意見、ご要望をいただいております。身近なところで言いますと、危険な道路の制限速度の塗装、これは防災安全課で大変迅速なご対応をいただき決定したようです。また、これも道路の話ですが、町内の舗装の案件も自治会長さんと近隣の方々そして土木課ご協力の上、着々と進んでおります。ごみ置き場増設などもこの後手がけるつもりでお仕事させていただいております。そして、さらには壮大なご要望として、結城にはまだ道の駅がないとか、ディズニーランドのようなアミューズメントパークがほしいとか、さらにはSDG's 対策で、地熱発電所の建設などのご要望まで寄せられております。すべて実現するのが理想ですが、しかし現実に至りましては、やはり何はともあれ予算が必要です。予算書を見ましても、規模の同じ様な市町村はだいたい同じ様な予算で、これを大きく変えることはなかなか難しい。

そういった中で、やはり官民連携いわゆる、特に最近では PPP/PFI といった事業がありまして、これは内閣府でも推進策が打ち出されておりますが、こういった方法を利用したの (Public-Private Partnership) (Private Finance Initiative)公共と民間の連携事業の推進が重要なキーの一つとなると思われます。民間企業のシステム、アイデア、さらには資金リソースなども活用して、事業のコスト削減、より充実した公共サービスの提供を可能にして、事業に成功している市町村もこのところございます。厳しい財政状況での新たな事業の計画のために利用すべき方法ではないかと思いますが、

総務行政

1回目

① まずは、官民連携、PPP/PFI などの本市の取り組み事例と、その成果についてご答弁願います。

PPPでの指定管理者制度の導入は行われれておりますが、PFIでの事業はまだ行われていないということでこちらのほうが資金の面ではさらに重要だと思っておりますので、本市としてはぜひとも成功事例を作っていただきたいと思っております。このように厳しい財政状況において新たな財源確保の取り組みが重要な課題だと思っておりますが、

2回目②つづいて質問です。当市の現在の施設管理運営ではどんな取り組みがなされているのかご答弁お願いします。

ネーミングライツ、クラウドファンディングなどで、少しでも資金の調達ということで悪くはないと思っておりますのでこちらはさらなる積極的な周知に努力していただけたらと思っております。また、施設管理運営の場合、委託事業ということで、民間に委託したらサービスが悪くなったとか、料金が高くなったなど耳にします。こういったことが起こらないよう、そちらの管理は引き続き行っていただきたい。

そして、こういった事業には優良な企業との連携が必須課題となりますが、できれば地元企業の育成と地元経済活性化のために地元企業参入が必要と考えます

ということで次の質問は

③地元企業の参入オファーは積極的なのか。

④プロジェクトチームなどの庁内推進体制はできているのか

まずは地元企業に参入を促していただき、とにかく官・民・特に市内の企業・市民消費者、がそれぞれwinwinwinな状況になるように条件整備をする必要があると思っております。

今年結城市でいえばアクロス修復工事や学校統廃合、山川不動尊近隣あやめ公園事業、又はその周りの環境整備がございしますが、PFI方式は盛り込まれていないということで少し残念な気がいたしました。

こういった事業にはもちろん失敗、破綻のリスクもあるようですが、結城市としてまずは財政改善、公債削減の成功事例を打ち出すことによってポテンシャルのあるまちということを他の市町村にもアピールしていただきたいと思っております。また、発注があってからで

はなく、プロジェクトチームなどの準備のほうは前もってしていただき、推進を促していただきたいと思います。従来の方法とは違い、特にお金の面、資金調達や建設費用などさらにVFMつまり支払いに対して最も高いサービス供給がある事業計画の導入を検討して頂き、

総事業費の削減に努めていただきたいと思います。

SPC特別目的会社（Special Purpose Company）

移住支援に関してですが、人口減少対策として当市も移住支援サイト NEWLOCAL 結城を開設したようですが、先日、現在東京勤務の方が、結城市の親の農業を継ぐために帰ってくるかどうか検討しているとのこと相談がありました。

その際に自分がその方になったつもりで、サイトにいって検索してみますと、まず目に入るのは子育て世代の方々への支援や募集などが目につきました。当然、どの地方も特に若い世代の獲得は非常に魅力的ということで、これも引き続き行っていただきたいと思います。

それ以上の年齢の方々に対してはどうかと検索してみますと、ようやく ”結城市わくわく茨城生活実現事業移住支援” という支援がみつかりました。こちらは非常に狭き門の限定募集だそうです。移住者の獲得で成果を出している市町村は例えば支援金が倍もらえるだとかという他の地方とは特化した政策を打ち出しております。

企画財務行政

1回目 そこで一つ目の質問です。

① 移住支援の現状また、とくに他の地方と違った結城市独自の得策があるのかご説明ください。

2回目

② 結城市HPやNEWLOCAL結城 以外での発信方法などはあるのでしょうか

S N Sなどで記事を読んでいたらお買い物サイトがポップアップしてきてついついお買い物をしてしまったご経験はないですか？

そのように当たり前のところのみではなくたとえばイベントのサイトからの発信など色々と工夫をしていただきたいと思います。

3回目

移住者の年齢別人数と効果についてご答弁願います。

結城市の人口もとうとう4万人台に突入か？と思ったらまた5万人台に何とか回復したといった感じですが、去年度は転入超過で成果が上がっているということで気を抜くとまた、4万人台になってしまうと思われますので、断続的な対策をお願いいたします。

移住、あるいはUターンに関心のあるのは20.30代が多いというデータであります。実はそろそろ介護が必要となる親を持つ50.60台で必要に迫られている人も多く、もし、この年代でも健康でまだまだ働く意欲のある方は歓迎するのであれば、若い現役世代の方々中心の発信ばかりでなくともいいのではと思われます。移住をお考えの方々の中にはもう定年になるが素晴らしいキャリアをお持ちの方も多く、人員不足の企業でまだまだ働けたり、また、退職金などでお店などを始めたいと思っている方々もいらっしゃいます。移住支援のみならず移住したときに直面するさまざまな問題の支援、例えば親の介護の支援や、老朽化する家の補修支援なども合わせてセットとして発信するべきではないのか？そうすれば高齢者の一人世帯対策、また、空き家対策にもつながるのでは？そういったことで次の質問は

4回目

④ 幅広い年齢、Uターンに向けての発信をもっとしてはどうか

結城市のインターネットなどでの広告のアピールはまだまだ控え目で、例えば同じ英語教育強化の広告でも、結城市の場合は「英語検定料を補助します」といった宣伝、かたやおなじサービスでも「国内留学！！」とうたわれたら、どちらに注目しますか？ ですので、他の市町村のやっていない結城市ならではのアピールの方法をもっと検討していただきたいと思います。ということで、

⑤ 移住支援の今後の取り組みについてご答弁願います。

次の問題にまいります。まず、つい先日の新聞でございますけれども、2022年の出生率は7年連続減の1.26人で、過去最低、人口の自然減(亡くなった方の総数から生まれた人の人数を引いた数)が79万人という非常に深刻な状況(この79万人という数は第二次世界大戦での一年間の平均死亡者数にも匹敵します。)また、単純に死亡者数は156万人、で戦後最多です。その内訳としてはガンが24%、老衰は10年前より倍になっているようで、11%、そして、コロナでの死亡は2%程です。そのコロナやワクチンには多額の補助金や予算を使ってきた半面、この国の人口減少対策がもう取り返しがつかない状況になっているように思えます。今になってようやく国も”静かな有事”とうことで、異次元の対策を図るといっておりますが、少子化対策の一環である子育て支援において、結城市としましては今年度、ゆうき独自の事業として ”子育て世帯すこやか祝金” という一時金を配るようですが、一時金というのは文字通り一時的なもので、私はそれ以上に持続可能長期的対策が必要と思うんですけれども、

そこで1回目

1-①子育て世帯すこやか祝い金とはどんな事業なのかその目的や内容は

早速今回4月に行われ事業開始後のデータがあると思われませんが、

2回目

1-②その状況をお知らせください。

従来、国や県の補助を利用した支援事業が多い中、今回こういった市独自の予算投入を検討され、

1-③いままでない市独自の事業予算の内訳と、どのように予算化したのか？

やはり子育てはお金がかかるということで経済的支援は非常に効果的だという方も多い中、

1-④その他の経済的支援はどういったものがあるのでしょうか

先日、子育て世代の方にヒアリングをしてみました。この結城市の子育て支援は以前と比べると良くなっているという意見でした。しかし、支援の多くは所得制限などの条件がつけられており、勤勉に働き、税金を納めている中間層のご家庭への支援は忘れられている存在になっているとのご意見もありました。他の支援も含めて、不公平感のない、事業計画を立てていただきたいと思います。また、事業の多くは国、県の交付金での支援が多い中、結城市独自の事業という事で、この”祝い金”を渡すことになった様ですが、今後も結城市独自の事業の予定はあるのか。

市長

①結城市のさらなる経済的子育て支援についてご答弁願います。

私も自分の政策に、給食の完全無償化などを入れておりますので、そんな一時的お金をばらまいていないではやく長期的な政策に取り組んでよー。という思いで一般質問の準備をしたのですが、担当の保健福祉課の部長からは妊娠から就学に至るまでも大変細かい援助やケアが工夫されているとの説明をいただきました。そこでじゃ、これでもう十分なのかと質問しましたら、予算が増えれば、特に資金面での子育て支援はさらに充実できることのことですので、そこもぜひともご検討いただければとおもいます。

最後に、新人議員という立場でまず、職員の方々とこの度一か月あまり一緒に仕事をさせていただいて、この保健福祉課というのは非常に女性の多い課で、（皆さんちょっとお若いですが）だいたい私と年代近い女性が多く、ご家庭あり子供さんありそして一日中市役所での仕事を20年もやってこられた方々で、働く女性の代表として仕事に対してのプロ意識の高い方々であると認識いたしました。皆様のように働きながらも楽しく子育てが出来るような結城市を目指して今後もお仕事に取り組んで頂きたいと思います。

また、市民の皆様からの多くのご要望をいただいた際に、特に先月は土木課や街づくり協働課、企画政策課の課長さん方々にも相談させていただきましたところ、大変皆様ご対応がよく、お仕事に徹していらっしゃるということが第一印象でした。

市議会議員の当初のイメージは市政のいわゆる””あら捜し””をすることが仕事のように思っておりましたけれども、そればかりではなく、職員の皆様が結城市民として当市のためにどんな良い仕事をしているのかを積極的に発信することも大切だと思いました。この職員の方々と共にこの結城市がより住みよい魅力的な町になるよう、お互い意見を交わしながら今後も問題解決に勤めていければとおもっております。また、この私にこう言った壇上にて発表の機会を与えてくださいました市民の皆様誠に感謝しております。ありがとうございました。